永井隆平和賞　低学年の部最優秀賞　受賞作文

「おとなになるためのだいいっぽ」

鍋山小学校１年　〇〇〇〇

　ぼくはほいくしょのおでかけで、ながいたかしきねんかんにいったことがあります。はかせがかいたえがたくさんありました。

　しょうがっこうにはいってから、はかせのほんのよみきかせをききました。はかせは、ばくだんがおちたときに、おおけがをしたのに、ちだらけでたくさんのひとをたすけました。すごくつよいひとだとおもいました。でも、いえにかえったときにいえがやけていて、おくさんのみどりさんがいなくてさがしました。はかせは、みどりさんのほねをみつけてひろいました。みどりさんのかおがみられないからとてもかわいそうでした。ぼくもかなしくなりました。

　でも、はかせはなかないで、ずっとひとをたすけていました。ほんとうにはたらきもので、こころがつよいとおもいました。

　ぼくには、99さいのおばあちゃんがいました。やさしくてだいすきでした。はかせがいたときにおばあちゃんもいきていたときいてびっくりしました。

　ぼくが、はじめてそくてんができるようになったときに

「おとなになるだいいっぽだよ。」

と、ほめてくれとてもうれしかったです。がんばってれんしゅうしてよかったです。おばあちゃんは、びょういんににゅういんしていました。さいごにあったとき、おばあちゃんがちいさいこえで、

「てんごくでもみているよ。」

といいました。そのあと、なくなりました。

　ぼくは、はじめておそうしきにでました。かそうばにもいきました。

「ぼく、がんばるからね。」

おばあちゃんにやくそくしました。

とてもかなしかったけれど、ちゃんとおわかれができたから、おかあさんがほめてくれました。

　はかせは、さいごにみどりさんにあえなかったけど、みどりさんがてんごくからみているからがんばったのかな。ぼくは、そんなきもちがします。

　ぼくのおとうさんも、はたらきものです。くるまのしゅうりをするおしごとをがんばっています。ぼくやおにいちゃんやおねえちゃんのためにぶらんこやたあざんをつくってくれます。つよくてかっこいいです。ぼくも、おとうさんみたいにつよいおとなになりたいです。それから、たくさんのひとのやくにたちたいです。

　おばあちゃん、みていてね。

保育所の時に「永井隆記念館」を訪問したという経験が、今回の作文につながっていることの素晴らしさ、また、ひいおばあちゃんとの約束を通して、亡くなった大切な人とつながって生きることの大切さを感じさせる作品です。

読んだ人たちにも、大切な人を思い出させてくれる、素晴らしい作文です。